

きれいに植えたよ！ 園児が河川愛護の花植えを体験



7月3日、村内保育園の年長児45人が国道113号沿いの荒川土手(辰田新地内)で河川愛護を呼び掛ける花植えを体験しました。

これは、羽越河川国道事務所の主催で、7月の河川愛護月間に合わせて行われたもの。園児たちは、この日準備された真っ赤なペゴニア1200株を同事務所荒川出張所の職員と一緒に約40分かけて丁寧に植えました。

平田光颯ちゃん(上野新)は「今日は暑くて汗をいっぱいかいたけど、みんなと一緒に植えられてとても楽しかったです」と喜んでいました。

また、荒川出張所の矢沢克敏所長は「園児の皆さんのおかげできれいに植えることができました。今度道路を通ったときにみんなが植えた花文字を見てください。そしてお家の人にも自分たちが植えたんだと教えてあげてください」と話していました。

緑の募金に 約19万円が寄せられました ご協力ありがとうございました

公益社団法人にいがた緑の百年物語緑化推進委員会が行った緑の募金に、一般家庭のほか小・中学校や緑の少年団などから、あわせて1512件、18万9819円が寄せられました。

寄せられた募金は、森林整備、学校・公共施設などの緑化、次代を担う緑の少年団の育成など、緑を守り、育てる活動に活用されます。

また、募金の一部は東日本大震災で被災した地域の復旧復興の費用として役立てられます。



▲6月20日、関川小学校6年生児童が役場を訪問。集まった募金を平田大六村長に直接届けてくれました。

瀬賀百花さん(下関・開志国際高1年)が日本のアマチュアゴルフ大会最高峰である「日本女子アマチュアゴルフ選手権競技」へ出場し、見事ベスト32に輝きました。

同選手権は、難コースで知られる大洗ゴルフ倶楽部(茨城県)を舞台に6月24日から開催され、全国から予選を勝ち抜いてきた138人で争われる予選のクオリファイメントーナメントを初日73ストローク、2日目を71ストロークの計144ストロークの22位

タイで予選通過。見事ベスト32に入り、決勝のマッチプレートーナメントに進出しました。

決勝のマッチプレーでは、1回戦で2&1と惜しくも敗退しましたが、瀬賀さんは「初めての出場だったので、ベスト32が目標でした。目標は達成できましたが、もっと上位へ行けると感じた分悔しい気持ちもあります。来年はさらに上位へ行くよう練習します」と、今後の抱負を語っていました。

日本女子アマチュアゴルフ 選手権競技 ベスト32に輝く!!

写真提供：日本ゴルフ協会(JGA)



▲プレーする瀬賀百花選手

例年より県内のホタルは減少傾向 — 県ホタルの会総会 —

7月5日、農村文化交流センターのくむを会場に「第26回新潟県ホタルの会（小菅英晴会長）総会」が開催され、県内から会員約20人が参加しました。ホタルの会は、ホタルの生息地や保護を目的として活動している団体。

総会では、県ホタルの会の永井潔監事が「ここ1、2年ホタルが減ってきた。今後、ホタルを保護していくためにも人材育成に力を入れていかなければならない。環境保護

のシンボルであるホタルを子どもたちにも伝えていきたい」と挨拶しました。
また、参加者から各地のホタルの発生状況などについて

ホタルを観察しながら健康づくり

— 第10回村民健康ウォーキング —

歩ききっかけづくりを目的に、ホタルを観察しながらウォーキングに親しんでもらおうと、7月5日、村民健康ウォーキングが開催されました。主催は、村健康づくり推進協議会運動部会。

当日は親子連れなども多く約80人が参加。闇夜に飛び交うホタルに歓声を上げながら上川口から下川口までの約3.4キロのコースを歩きました。

ウォーキングに参加した村ホタルの会の近正七さん（下関）は「きれいなホタルをたくさん観ることができて良かった。ホタル観察を活用したウォーキングにこんなにたくさんの人たちの参加があり、



報告。長岡市では例年と変わらず多くのホタルを観ることができたものの、他の地区では非常に少なかったとの報告がされました。

夜は、村内のホタルを観察し、村民健康ウォーキングと合流する場面もありました。

とても嬉しい。ホタルの会としては、このままの状態を維持していきたいし、ホタルの数が減らないよう一人ひとり環境保全に気をつけて欲しい」と話していました。

関川中1年生 担ぎ手デビューを控え 大したもん蛇まつり学習会



7月16日、関川中学校で1年生を対象にした大したもん蛇まつりの学習会が開催されました。これは、まつり本番を控え、まつり誕生の経緯やまつりにどんな想いが込められているのかを学んでもらおうと行われたもので、今回で3回目。

講師は、第1回大したもん蛇まつり当時の責任者を務めた佐藤忠良副村長が務めました。学習会では、大里峠伝説と羽越水害の2つがテーマになっていること、

大蛇の胴体は54集落で作られていることなどの説明を受けたほか、実技演習では実際に大蛇担ぎを体験。

近幹也さん（上関）は「今日の話聞いて、まつりには伝説と水害が関係していることが分かりました。大蛇を担ぐのは初めてですが、本番では周りの人たちが、本番では周りの人たちが吐かず、掛け声を出して協力して担ぎたい」と話していました。